



from Frankfurt



ヴァルトブルク城。ここでルターは聖書をドイツ語に翻訳した

# イノベーションの今昔

本年は、ルターの宗教改革から500周年に当たります。これを記念して、ドイツでは各地でさまざまな催しが行われています。また、500年前にルターが「95カ条の論題」を提示して改革の発端となった日（10月31日）を本年はドイツ全土で祝日とするなど、世界史における宗教改革の重要性があらためて想起されます。宗教改革は、その後の欧州の社会や文化に大きな影響を与えただけでなく、その思想は世界に広まり今日に至っています。

ところで、ルターをはじめとする宗教改革家たちの考えを広めるのに大きく貢献したのが、活版印刷術という当時の「イノベーション」であったことはよく知られています。中世欧州における本の製作は、手書きで本を書き写す写本が中心でした。しかし、グーテンベルクが金属活字と印刷機を考案し、高速かつ大量の複製が可能となりました。印刷機の仕組みは、ブドウ搾り器などから着想を得たとされています。グーテンベルクが生まれ育った古都マインツ周辺のライン川沿岸では、古来ワイン作りが盛んで、ブドウ搾り器は身近な道具でした。

ワイン作りの工夫が印刷技術の発展につながり、その技術により聖書や学術書が急速に普及し、多くの人々が新たな考えや知識に直接触れるようになった結果、社会全体が大きく変化していったわけです。

さて、現在のドイツに目を転じると、近年「インダストリー 4.0（第4次産業革命）」と呼ばれる一連の取り組みが進められています。ここでは、ビッグデータや人工知能などの活用により製造工程の革新を目指すさまざまな実験が行われています。この現代のイノベーションに向けた試みも、未来の社会全体を変えていく可能性を含んでいるように思われますが、果たして将来どのような変化をもたらすのでしょうか。

（日本銀行フランクフルト事務所）

\*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



左/グーテンベルクの印刷機（複製）。下/ライン川周辺の丘陵地とブドウ畑

